



第184号

平成26年7月1日
小松市史編纂事務局
へんさんだより

市史へんさん



今年は、海水温が上昇するエルニーニョ現象の発生により、6月は晴れの日が多かったですが、7月はぐずついた天気が続く、梅雨明けが遅くなるようです。昨年のようなゲリラ雨が降ることも予想され、災害対策も今一度確認し、万全に備えておいてください。

さて、7月20日にはいよいよ市史講座が開催されます。難しいタイトルですが、新田は村の生死を懸けた事業。それに懸けた村民の熱き情熱にふれてみましょう。多数のご参加をお待ちしております。

第63回 市史講座

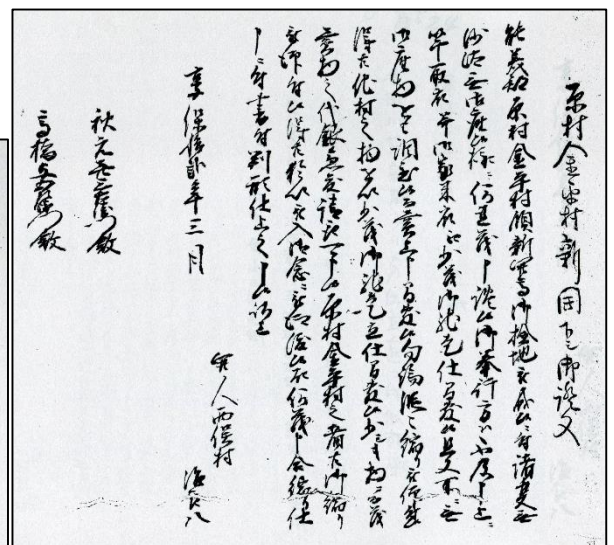
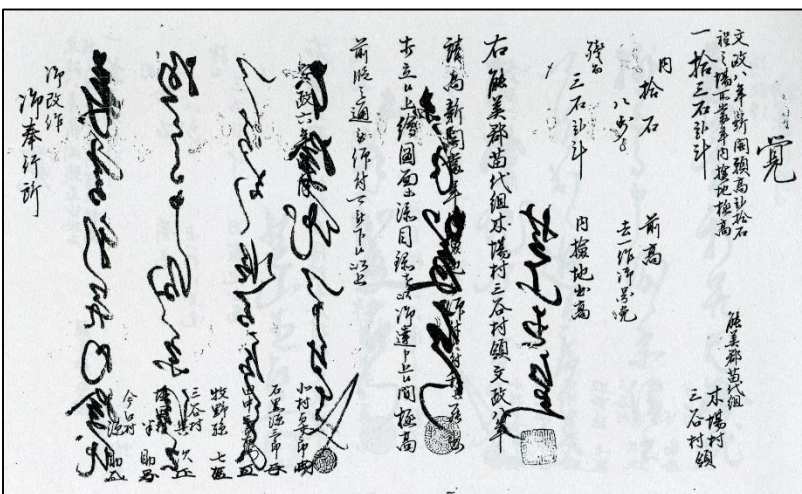
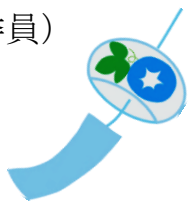
近世能美郡の新田開発について

講師：見瀬 和雄氏（金沢学院大学文学部教授・小松市史編集委員）

日時：7月20日(日) 午後1時30分～3時30分

会場：小松市公会堂4階 大会議室

受講料：無料（事前予約不要）



新聞に関する文書（石黒家文書）

＜内容＞

次期発刊予定の『新修 小松市史 近世村方編』にちなみ、近世(江戸時代)頃の新田開発に着目し、それにまつわる文書を読み解き、当地方の村の有様や農業の様子について探っていきます。

「第3章 ヤマの暮らし」紹介

この「民俗編」の大きな特徴は、市民を対象に聞き取り調査を行い、その内容が本文に反映され、小松市民の「らしさ」が随所に表されているところでしょう。

特に、ヤマの暮らしには生活面においても仕事面においても、マチとは違ったオリジナリティがあり、生活習慣の変化を諸に受け、その苦勞がひしひしと文章から伝わってきます。聞き取りは大杉を中心に実施していますが、かつて、この地は炭焼きで生活を支えており、ガス・灯油・電気等が普及すると需要が激減。それに伴い、林業や製材業にも不況の波が押し寄せ、いろいろな方策を試みましたが、その体験が生々しく語られています。

またダムで沈んだ山村(白山麓西谷)で使われていた人生儀礼の用具が、その節々ごとに、伊藤常次郎氏が収集され、西谷特有の用具が一連で残されていることから国の有形民俗文化財に指定され、その主たる用具が今回紹介されています。

近年、大杉では、村から出た人が、夏場だけ過ごす家や別荘を建てたり、退職後に新たに村の住人となって、従来の生活上の知識や工夫を受け継ぐものが出て、ヤマに新しい動きが芽生えています。



昭和30年頃のヤマの暮らし(新丸町)

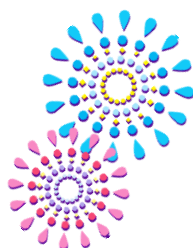
『民俗編』販売中!!

12月まで特別価格(3,800円)にて、販売しております。
お求めの方は、お早目に、市史事務局まで、直接お越しください。1月以降は、5,000円となります。



<事務局6月の活動状況>

- ・ 6月4日(水) 榊原拙處作品調査
- ・ 6月9日(月) 美術工芸部会
- ・ 6月11日(水) 建築部会
- ・ 6月12日(木) 越塚友邦作品調査
- ・ 6月24日(火) 編さん・編集委員会
- ・ 6月26日(木) 産業部会



<事務局7月の活動予定>

- ・ 7月8日(火) 建築調査(安宅町)
- ・ 7月12日(土) 近世村方部会
- ・ 7月20日(日) 第63回市史講座
- ・ 7月28日(月) 美術工芸部会

<7月のカレンダー>

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

は小松市史編纂事務局(図書館2階)が閉室しています。

市史編纂担当(小松市教育委員会生涯学習課)

- ・ 住所 〒923-8650 小松市小馬出町91
- ・ TEL 0761(24)8274 ・ FAX 0761(23)3563
- ・ E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
- ・ URL <http://www.city.komatsu.lg.jp/shishihensan/index.html>

小松市史編纂事務局(小松市立図書館2階)

- ・ 住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町19
- ・ TEL 0761(24)5315 ・ FAX 0761(22)9763